

団体名	東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア
活動テーマ	宮城県南三陸町への継続した支援のとりくみ（海の虹プロジェクト、復興支援餅つきツアー等）



『海の虹プロジェクト』2016年は、これまでの古屋の限界集落でがんばっているお年寄りを手伝っての鹿除けネット張りに加えて、京都府南部エリアでの活動を追加し、南山城村のたくさんの方々にご協力いただき、様々な体験を行うことができました。子どもたちは、この5年間の『海の虹プロジェクト』を通じて、自立すること、挑戦すること、助け合うこと、人々のつながりを大切にしていくこと、等々について、様々な体験を通じて考え、さらには「自分たちも誰かを応援することができるんだ」ということに気付くことができました。また、卒業して高校生となった子ども達の中には、「南三陸の復興のために、自分が先頭に立って頑張る」という決意も芽生えはじめています。

『復興支援餅つき大会』京都生協と職員ボランティアでは東日本大震災の発生直後から、様々な支援活動を継続してきました。中心的には宮城県漁協志津川支所の漁業再開支援と炊き出し、南三陸町の被災者が避難する仮設住宅での炊き出し活動を通して、漁業の復興支援と、復興への意欲を持ち続けてもらうための心の交流支援（絆）を炊き出しの形で行ってきました。私たちが支援してきた宮城県漁協志津川支所では、漁業の足場はようやくできたように見えますが、南三陸町の宅地建設はまだ先行きが見えておらず、まだまだ長い避難所生活が続くと思われまます。登米市南方仮設住宅では自治会長が、「住民がみな楽しみにして待っていた。泣きたいくらい感謝しています。これからも私たちが忘れないでいてほしい」と話してくれました。先の見えない不安な日々の中、年越しを少しでも明るく元気に過ごしていただけるよう、餅つきの掛け声を響かせたいと思っています。